

②1

日清戦争忠魂碑

〔石碑に彫刻されている文字〕

（表面）
日清戦没忠魂碑

陸軍大将 菱刈 隆書

（裏面）
（1段目）

歩兵第五聯隊忠烈遺芳
聯隊長 大佐

中尉 渡部 進
少尉 岸 武四郎
少尉 伊木 祐五郎
少尉 冷泉 新

（2段目）
樋口 鎮

ほか23名

（3段目）
今與 助

ほか26名

（4段目）
市川 金藏

ほか26名

（5段目）
神金 次郎

ほか7名

（6段目）
武林甚三郎

外四百七十三霊位

陸軍少将 三浦 真書

昭和十一丙子年四月十四日

昭和11年（1936）4月14日 建立

〔建立者〕西田久助 ほか

〔題字・書〕題 陸軍大将 菱刈隆、

書 陸軍少将 三浦真

石工 石工
成田 斎藤 文蔵
須藤 正男
古跡 慶代太郎
小形 喜太郎
須藤 善太郎
奈良 久助
西田 善太郎

【解説】

日清戦争における戦死者を慰霊する忠魂碑です。

忠魂碑建立は、日清戦争から帰還した西田久助らが明治30年（1897）に計画したものでした。西田らは寄附を募り、公園に石を運び入れ工事に取りかかりましたが、資金の問題などで計画が中止となり、石は海岸に放置されていたようです。その後、戦没者遺族のひとりがこの石のことを知り、兄弟の名が刻まれた未完成の石碑を何とかしたいと、西田ほか有志らと協力して再び建立のために寄附金を募集し、日清戦争が終わって40年あまり経過した昭和11年（1936）4月によりやく完成しました。

鎮魂費の題字は、当時の陸軍大将の菱刈隆、書は陸軍少将の三浦真となっています。